

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成 22 年 8 月）

仙台管区气象台
火山監視・情報センター

めだけ
女岳北東斜面では、6月の観測と比較して地熱域の広がりには大きな変化は認められませんでした。ただちに噴火する兆候は認められませんが、今後の火山活動の推移に注意する必要があります。平成21年10月27日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図5～6）

仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置してある遠望カメラ（東北地方整備局）では、噴気は観測されませんでした。

10日に実施した現地調査では、女岳北東斜面の地表面温度分布¹⁾は、前回（2010年6月2日）の観測と比較して、地熱域の広がりには大きな変化は認められませんでした。また、以前から定常的に地熱の高まりがみられている女岳山頂北部の噴気地熱地帯では、地表面温度分布¹⁾などに特段の変化はなく、新たな地熱域は認められませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・地震や微動の発生状況（図2～4）

火山性地震は少ない状況が続いています。火山性微動は観測されませんでした。



図1 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

（小さな白丸は気象庁観測点位置を示しています。

小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。）

* 運用開始前の観測点も含んでいます。

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成22年9月分）は平成22年10月8日に発表する予定です。

※資料は気象庁のデータその他、国土交通省東北地方整備局、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平20業使、第385号）。また、同院発行の『数値地図25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平20業複、第647号）。

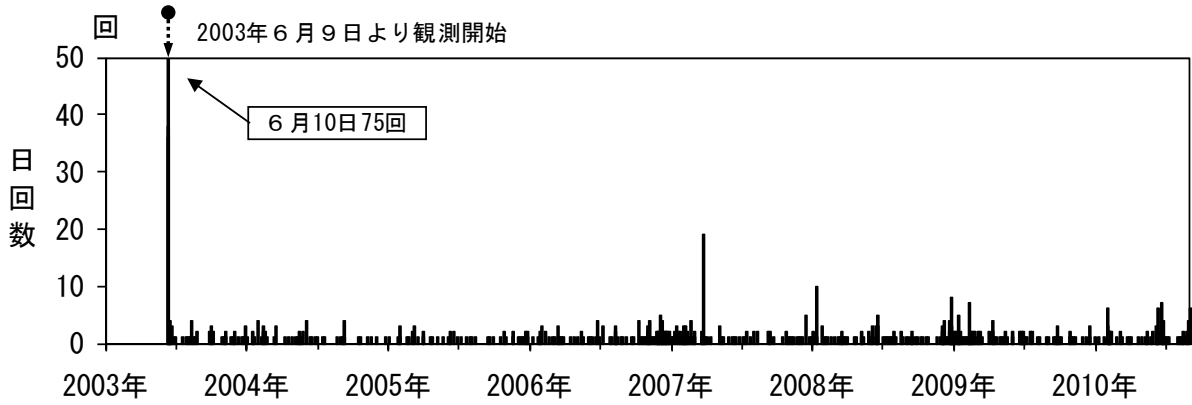


図2※ 秋田駒ヶ岳 日別地震回数（2003年6月～2010年8月）

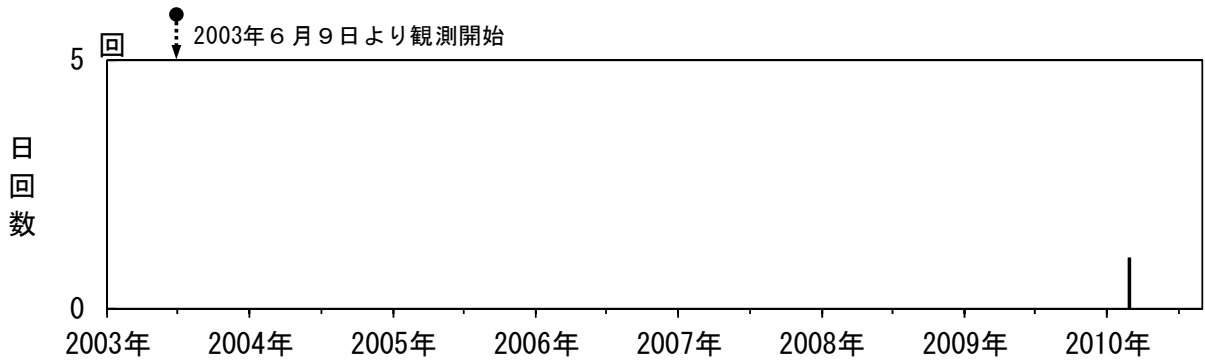


図3※ 秋田駒ヶ岳 日別微動回数（2003年6月～2010年8月）

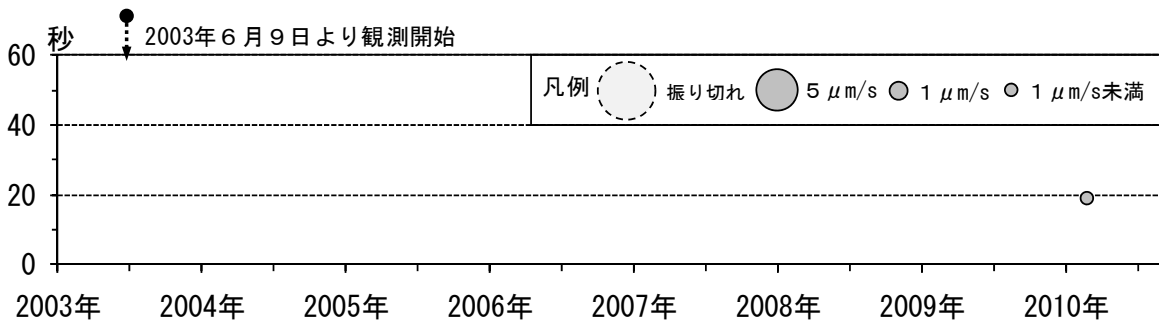


図4※ 秋田駒ヶ岳 微動の継続時間と上下動最大振幅（2003年6月～2010年8月）
東北大学秋田駒ヶ岳観測点による。

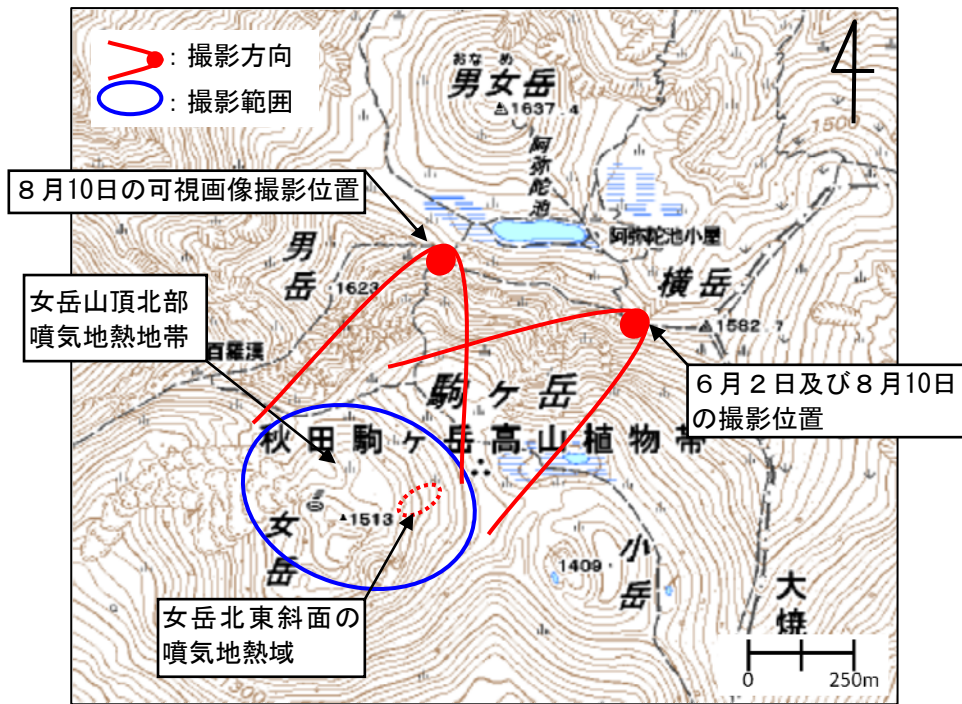


図5 秋田駒ヶ岳 地形図と地表面温度分布¹⁾ 観測地点（図6）

(※) 上空から撮影されたため、図中ではおおよその撮影方向を示します。

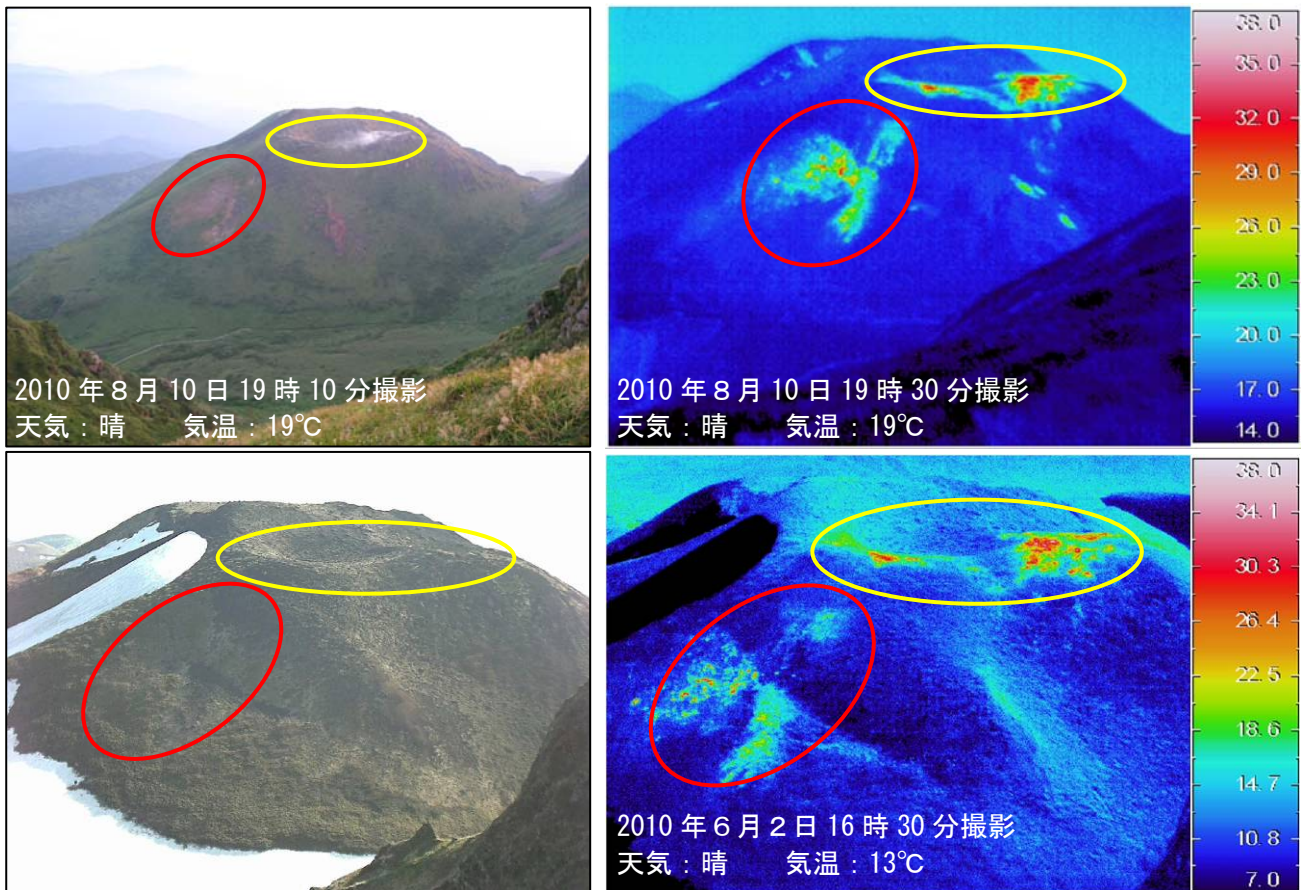


図6 秋田駒ヶ岳 女岳北東斜面の可視画像（左）と地表面温度分布¹⁾（右）

上段：2010年8月10日撮影 下段：2010年6月2日撮影

- ・ 図の実線赤色囲みの領域が、2009年8月に確認され、2010年4月にかけて拡大が確認された北東斜面の噴気地熱域です。
- ・ 図の実線黄色囲みの領域が、以前から地熱の高まりがみられる山頂北部の噴気地熱地帯です。
- ・ 図中の囲みの無い領域で、温度が高く表現されている部分は、日射による影響を受けていると考えられます。